

市民活動団体実態及びニーズ調査 集計結果（平成 28 年 11 月実施）

調査時登録団体数 137 回答団体数 98 回答率 72%

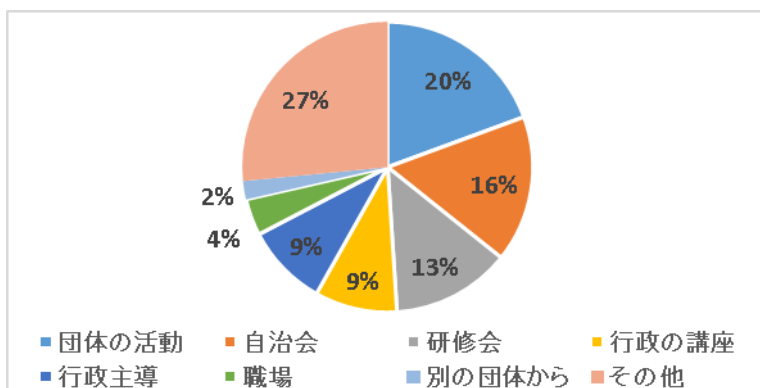
1. 「団体について」

【単位：団体】

1-1 貴団体はどのようなメンバーで団体を設立しましたか。

1. 他のグループ・団体の活動やイベントで知り合った人たち同士で【19】20%
2. 自治会等地縁組織で知り合った人たち同士で【16】16%
3. 研修会や講座で知り合った人たち同士で【13】13%
4. 行政が主催する講座や会議、委員会への参加を通して知り合った人たち同士で【9】9%
5. 行政に呼びかけられて【9】9%
6. 職場で知り合った人たち同士で【4】4%
7. 別の団体から分かれて【2】2%
8. その他【26】27%

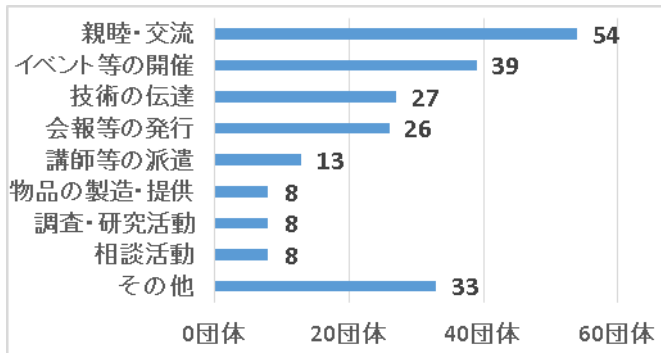
・会に賛同した者達で ・中学の部活OBで ・スポーツを通じた仲間で
・同郷の者で ・小学生の保護者 ・幼稚園の卒園生 ・アルコール依存症者
・社協の講座を通して ・施設利用者の集まり ・同業者で ・年金受給者
・いけ花の有資格者



1-2 貴団体が継続的にやっている活動は何ですか。（該当するもの全てに○）

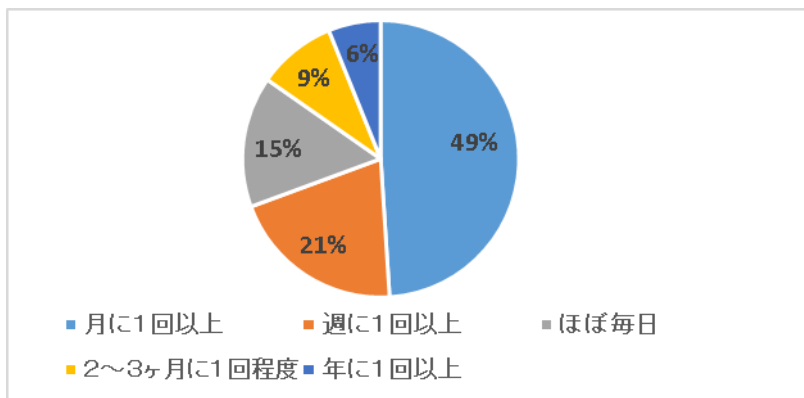
1. 親睦・交流の場・機会の提供【54】
2. イベントやシンポジウム等の企画・開催【39】
3. 技術・技能。ノウハウ等の指導・伝達や人材育成【27】
4. 会報・広報紙等の発行【26】
5. 講師・スタッフ等の派遣【13】
6. 物品等の製造・製作および提供【8】
7. 調査・研究活動【8】
8. 相談活動（電話・窓口等）【8】
9. その他【33】

- ・川の護岸の草刈、整備
- ・公園の草刈、整備
- ・山林の整備
- ・犯罪抑止活動
- ・ホタル生息地の整備
- ・パソコン講習
- ・市内史跡ガイド
- ・交通安全の啓発
- ・スポーツ競技大会と教室
- ・施設への慰問
- ・日本語教室
- ・生ゴミの堆肥化
- ・おもちゃの修理
- ・エコキャップ運動
- ・女性の地位向上
- ・拡大写本の作成
- ・緑化推進
- ・保育
- ・まちづくりの提案
- ・街中にベンチを増やす取組み



1-3 貴団体の活動の頻度はどのくらいですか。

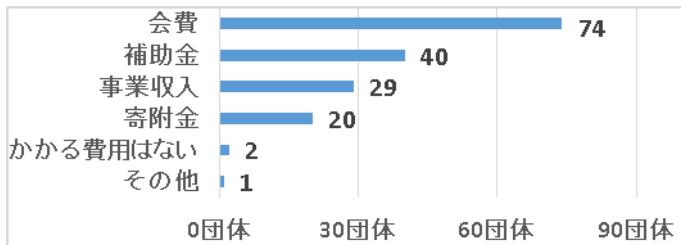
1. 月に1回以上【48】 49%
2. 週に1回以上【20】 21%
3. ほぼ毎日【15】 15%
4. 2～3ヶ月に1回程度【9】 9%
5. 年に1回以上【6】 6%
6. その他【0】 0%



1-4 貴団体が活動するための費用の主たる財源を教えてください。（該当するもの全てに○）

1. 会費【74】
2. 補助金【40】
3. 事業収入【29】
4. 寄附金【20】
5. 活動にかかる費用はない【2】
6. その他【1】

・ゼロック代

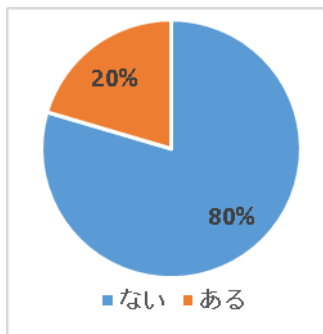


2. 「市民活動応援補助金（きらめき補助金）について」

社会的課題に取り組む市民活動の事業費用の一部について、財政的に支援するため、市民活動応援補助金（きらめき補助金）を交付しています。

2-1 市民活動応援補助金（きらめき補助金）を申請したことはありますか。

1. ない（2-3へ）【78】 80%
2. ある（2-2へ）【20】 20%



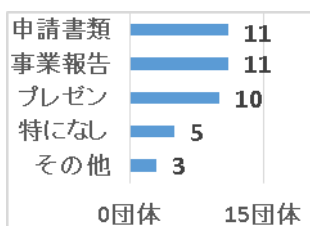
2-2 市民活動応援補助金（きらめき補助金）を申請する上で大変だったことはありますか。（該当するもの全てに○、回答後は3へ）

1. 申請書類の作成【11】
2. 事業報告会（準備と当日）【11】
3. プレゼン（準備と当日）【10】
4. 特になし【5】
5. その他【3】

・プレゼン、報告会に参加するための日程調整 ・団体内で企画を練る作業

・報告は書類だけで、報告会はなくてよい ・書類の記入事項が多い

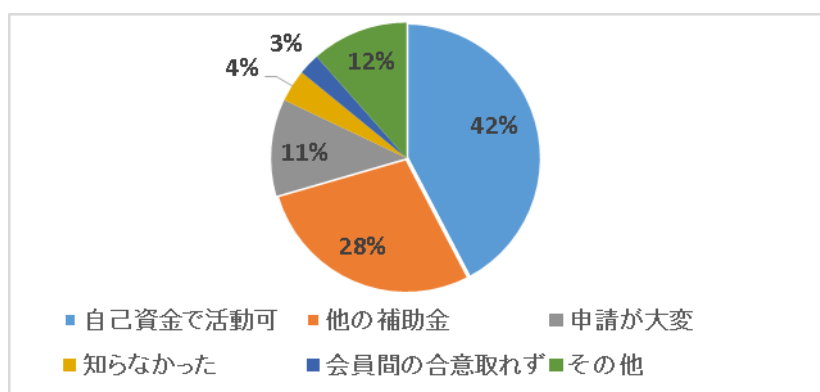
・春に事業を実施したいが、4月にプレゼンで5月～6月に補助金交付では実施が難しい ・事業の決算



2-3 市民活動応援補助金（きらめき補助金）を申請しなかった理由は何ですか。

1. 自己資金で活動できるため【33】42%
2. 既に他の補助金を受けているため【22】28%
3. 申請書類の作成が大変だから【9】11%
4. 知らなかったため【3】4%
5. 会員・メンバー間での合意が取れないため【2】3%
6. その他【9】12%

・該当事業を行う予定がないため ・市と協働して事業を行っているため
・補助金の額が少なく役に立たない ・プレゼンの方法に納得できない
・行政と関わることで活動に制限が生まれるのが嫌だ ・企画を練っている途中
・申請時期が限られているため、スピーディーに事業実施ができない

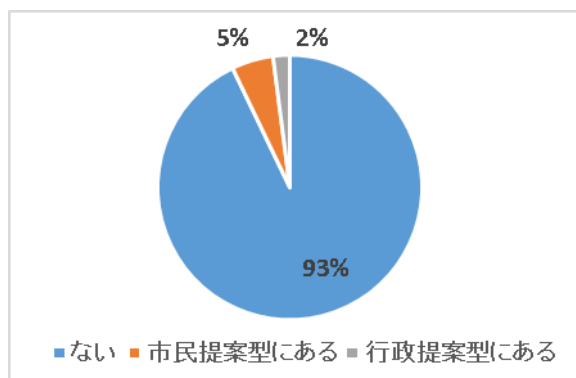


3. 「市民協働事業制度（市民・行政提案型協働事業）について」

市民活動団体と行政が協力・補完し合って取り組む事業を推進するために、市民協働事業制度（市民・行政提案型協働事業）があります。

3-1 市民協働事業制度（市民・行政提案型協働事業）に応募したことはありますか。

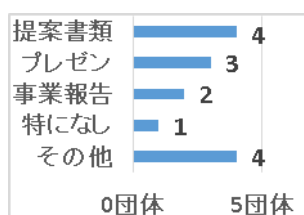
1. ない（3-3へ）【91】93%
2. 市民提案型協働事業に応募したことがある（3-2へ）【5】5%
3. 行政提案型協働事業に応募したことがある（3-2へ）【2】2%



3-2 市民協働事業制度に応募する上で大変だったことはありますか。(該当するもの全てに○、回答後は4へ)

1. 提案書類の作成【4】
2. プレゼン（準備と当日）【3】
3. 事業報告会（準備と当日）【2】
4. 特になし【1】
5. その他【4】

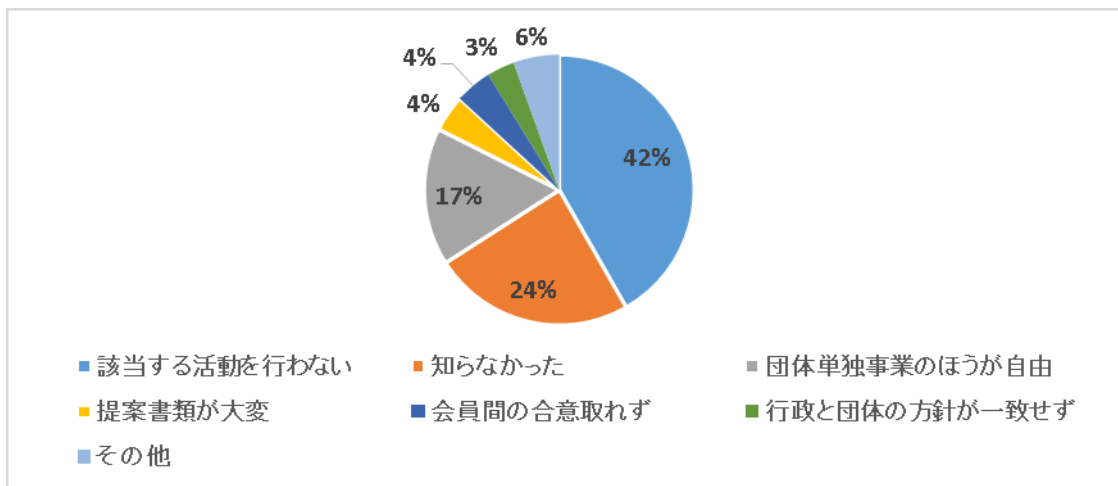
- ・本来行政提案で進めるべき事業だと思われるものを、市民提案で提出するように行政から頼まれた
- ・申請時期が限られているため、スピーディーに事業実施ができない
- ・担当課との事前調整やプレゼンなどに労力がかかりすぎる
- ・審査方法、判断基準、本来の主旨が不明確。市が協働事業を育てようとしているのかが疑問。継続事業や少額の事業は審査が不要
- ・財政課長が審査員になっていることに納得がいかない
- ・職員側も市民側も大変なことが多く、こんな制度では発展のしようがない
- ・予算は担当課が要求するのではなく、市民協働事業のために特別にとるべき
- ・プレゼンの時間配分が不公平 ・事業の重要性に対して行政の理解がない



3-3 市民協働事業制度に応募しなかった理由は何ですか。

1. 対象事業に該当する活動を行う予定がないため【38】 42%
2. 知らなかったため【22】 24%
3. 団体の単独事業のほうが自由に事業展開できるため【15】 17%
4. 提案書類の作成が大変だから【4】 4%
5. 会員・メンバー間での合意が取れないため【4】 4%
6. 行政と団体の方針が一致しないため【3】 3%
7. その他【5】 6%

- ・既に市と協働している ・行政のやる気が感じられない

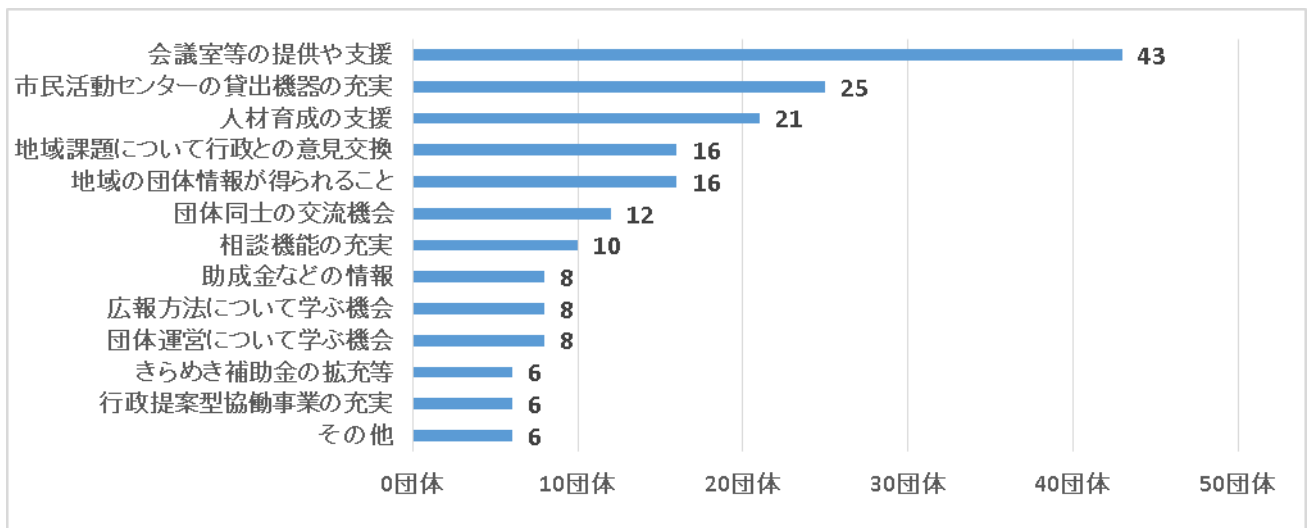


4. 「市民活動の支援策について」

4-1 貴団体の特性を活かし、地域課題の解決を目指すにあたって、行政や市民活動センターあやせに充実してほしい内容について教えてください。（特に希望するもの3つまでに○）なお、各選択肢について具体的な困っている状況や提案があれば4-2や4-3に記入してください。

1. 会議室等、活動の場の提供や支援【43】
2. 市民活動センターあやせの貸出機器の充実【25】
3. メンバーやボランティアなど人材育成の支援【21】
4. 地域の課題について行政との意見交換の場があること【16】
5. 地域で活動している団体の情報が得られること【16】
6. 団体同士が交流できる機会があること【12】
7. 相談できる人や場や機関がさらに充実すること【10】
8. 助成金などの情報がより得やすくなること【8】
9. 広報の方法について学ぶ機会の充実【8】
10. 団体運営のノウハウを学ぶ機会の充実【8】
11. きらめき補助金の上限額・交付回数の拡充等【6】
12. 行政提案型協働事業の提案数、分野等の充実【6】
13. その他【6】

・移動手段の提供 ・パソコン講習の充実 ・オフィス形式の賃貸施設
 ・ポスターチラシ等の配布、掲示方法の改善 ・備品の置き場の確保
 ・きらめき補助金は財政的な支援の側面以上に、申請書の書き方やプレゼンの方法などを学ぶことができ、多くの人と関係を持つことができたし、県の補助金を取得することにも繋がって感謝している



4-2 4-1で○をつけられたことで、具体的に困っていることを教えてください。

- ・ 会員の高齢化が進んでいる。若い人に加入してもらいたい ・ 資金不足
- ・ 高齢化で移動手段の確保が困難 ・ 障がい者の移動手段の確保が困難
- ・ 会議室が1時間単位でしか借りられない ・ 会員募集をしても応募者が少ない
- ・ 会場の確保が困難（行政に行ってほしい） ・ プロジェクターの買い替え
- ・ 現状よりも大きな団体用ロッカーの設置、又は増設 ・ PCの買い替え
- ・ 団体が施設使用料の減免を受ける際、市民が半数以上という制約は厳しすぎる
- ・ 行政の都合でしかなく、市民活動を支えるという意味が感じられない
- ・ 活動場所である学校がプラザ事業のせいで使えなくなっている。土日も、大人の団体が使うせいで、子どもが使えないことが多い
- ・ 高齢者の参加を促すにはどうしたらよいか ・ 会員が増えない
- ・ 市内で活動する団体の情報がまとめてわかるものがない
- ・ 公開審査の場でさらし者になることが嫌だ ・ 大判スキャナーの設置
- ・ オーエンス文化会館のイスがチープ ・ カラー印刷費が高すぎる
- ・ ポスタープリンターの使い方が難しく、使うのをためらってしまう。職員にやってもらいたい
- ・ 会議室等が有料になった（100%公益のための活動なので、会場は無料で提供してほしい）
- ・ 会場使用料の他、講師謝礼なども常に支援してもらいたい
- ・ 施設で飲酒が出来なくなり、親睦会の開催が減った
- ・ 市の行事と利用日が重なり、会場の明け渡しをさせられた
- ・ 各種団体からの充て職で会が成り立っているなので、任期が終わるとみんな辞めてしまって後任者が育たない
- ・ 音を出す必要があるので、使用できる場所が限定されてしまう
- ・ 市民活動センター2階の会議スペースはありがたいが、もっと会議室がほしい

4-3 4-1で○をつけられたことで、具体的な提案があれば教えてください。

- ・自治会を通じて参加者の募集を行う
- ・市のホームページの情報更新が不十分
- ・行政との意見交換の場を定期的に設ける
- ・会議室や活動の場の提供、支援
- ・スポーツセンターでスポーツ以外の活動もさせてもらいたい
- ・きらめき補助金補助回数制限の拡大（はぐくみ3年→5年）
- ・広報あやせの紙面を大きく使わせてほしい（小さくて目立たない）
- ・会議室を30分単位で借りられるようにしてほしい
- ・広報的な支援がほしい
- ・市民活動センターが登録団体の会場確保を代行すべき
- ・市役所の会議室を開放してほしい
- ・補助金は書類審査だけにしてほしい
- ・市民活動で使える会議室を増やしてほしい
- ・自治会回覧で会員の募集を行う
- ・施設使用にあたって、市民を優先するのはいいが、市民が半数以上という制約は撤廃すべき
- ・地区センターは空室が多いので、無償個人利用を2時間に制限すべきではない
- ・綾瀬の施設使用料は高く感じる。市民活動団体に対してはもっと安くしてほしい
- ・プラザの際、グラウンド使用を半分にし、半分は団体に貸してほしい
- ・学童保育を行政の都合で行わず、地域の意見をきちんと聞いて欲しい
- ・休日についても学校は大人ではなく、子どもが優先して使えるようにしてほしい
- ・若い母親をボランティアデビューさせる講習会
- ・参加者の多いイベントを企画している団体はどのようにして集客しているのか教えてほしい
- ・藤沢市のボランティアーズのような機関紙が綾瀬にもほしい
- ・補助金の審査は非公開にしてほしい
- ・広報の方法についての講習会の開催
- ・補助金の審査会は単にジャッジをするのではなく、団体に寄り添い育てようとする考え方が必要。審査会の委員の人選も含めて再検討すべき
- ・会議室の短時間の延長は無料にほしい
- ・他団体の活動日が一覧表でわかるようにしてほしい
- ・他団体の運営方法について参考にし、勉強する機会がほしい
- ・市とオーエンスとの情報の共有化、連携を強化する
- ・事業のお知らせ等をメールにて周知する

- ・登録団体以外も印刷などの機器使用を認めるべき（金額を若干割高にして）
- ・市民活動センターは小規模な団体を支援すべきものだが、現状は規模や収益金額に関係なくNPO法人も登録されている。取り扱い金額等で登録規制をかけるべき
- ・広く市民に登録団体をPRする場がほしい
- ・補助金は事業に対してではなく、団体に対してのものにしてほしい。補助金制度を、団体からの申請に基づくものではなく、登録団体を調査し、調査の結果で補助金を支給するものに変えてほしい
- ・障がい者の就労支援につながるアドバイスを
- ・大学教授などに相談対応のためのシステムを構築してもらう
- ・行政と一緒に街中にベンチを設置する活動を行いたい
- ・団体交流会の企画段階から、登録団体も加えて行ったほうがよい
- ・他市の市民活動センターとの交流をより深め、色々なやり方を学ぶべき